

## 持続可能性と地域コミュニティのサービス

千葉大学法経学部助教授 / 公共研究センター

倉阪 秀史

### 穴に水を入れる問題

図1にしめすようないくつかの穴を思い浮かべてください。これらの穴は、大きさも、深さも、位置も互いに異なっています。では、これらの穴に水を入れるとき、どのような方法がもっとも「効率的」でしょうか。

単純な答えは、水を大量に入れる方法です（図2）。

洪水案と呼びましょう。これは、もっとも時間的効率や労働効率が良い案といえます。この方法では、個々の穴の大きさ、深さ、位置を調べる必要がないからです。

図1 穴に水を入れる問題

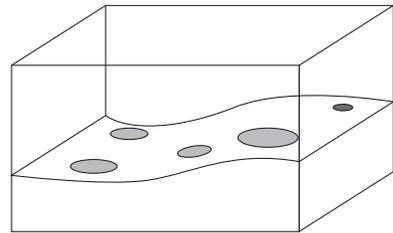
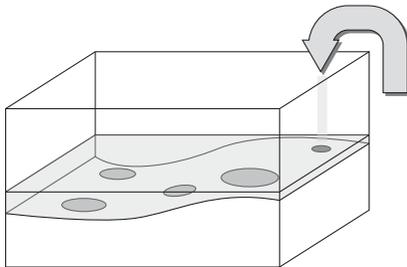


図2 洪水案



しかし、洪水案は、最も資源効率的な解決案ではありません。洪水をおこなうためには、たくさんの水が必要となります。

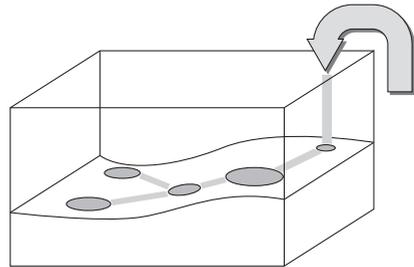
すでにお気づきのことと思いますが、この方法が、市場経済において個人のニーズを満たすやり方なのです。個々の穴が、個人の多種多様なニーズを示します。水は、製品を意味します。市場経済では、生産者は、通常、消費者の個人的な情報を持っていません。生産者は、地域コミュニティに、製品を注ぎ込むだけなのです。

洪水案では、地域コミュニティは、完全に受け身です。生産者だけが個人のニーズを満たすためのイニシアティブを持っています。生産者が行うことは、製品を作り出すことだけです。生産者は、作り続けなければなりません。かくして、大量生産・大量消費型の社会が作られていきました。

もし、物質的資源が豊富で、人的資源が希少な状況であるならば、洪水案も正当化できるかもしれません。しかし、今日、われわれはそのような状況にはありません。われわれは、地球温暖化、廃棄物の量の増大、生物多様性の減少など、さまざまな環境問題に直面しています。われわれは、経済的な発展を享受しつつ環境負荷を低減させていくために、資源生産性、つまり、単位資源消費あたりの経済的付加価値を向上させていく必要があります。資源生産性の向上が、持続可能な社会への鍵なのです。

では、どの解決案がもっとも資源効率的なのでしょうか。図3が、その解決案を示しています。この水路案では、穴と穴を水路でつないで水を流すこととしています。このようにすれば、水の量は最小になるはず

図3 水路案



水路案では、製品は、必要とされる分だけしか生産されません。財とサービスは、個々の顧客に直接に提供されます。これは、オーダーメイドの世界といえます。この世界では、生産者によって、個人のさまざまなニーズが考慮されます。生産者は、新規製品を届けるだけではなく、既存の製品を修理したり、取り替えたり、リユースやリサイクルに回したりといったサービスを提供するようになるでしょう。

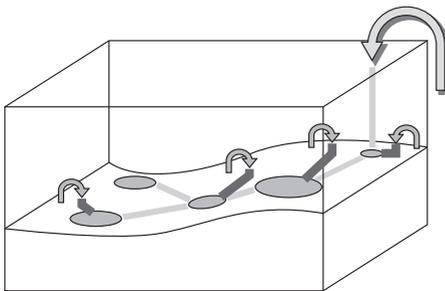
このようなサービスは、地域コミュニティの中で提供できるかもしれません。このようなオーダーメイドのサービスは、大量生産には不向きなのです。このように考えると、図4のような、水路+井戸案に行き着きます。

井戸は、地域の資源を表します。地域の資源には、人的資源（ケア、教育、娯楽など）、物的資源（使用済み製品、再生資源、地域産品など）、環境資源（風力、太陽光、森や湖など）が含まれます。市場経済では、このような資源は十分に活用されていません。

水路+井戸案を実現するためには、地域コミュニティの中に、水路と井戸をコーディネートする主体が必要です。このような「水コーディネーター」の役割は、現実世界では、第一に、地域の個人的なニーズを認識すること、第二に、

地域資源を把握すること、第三に、これらの地域の需要と供給を引き合わせることの3つとなります。

図4 水路+井戸案



誰がコーディネーターを務めるか？

では、誰がコーディネーターの候補になるのでしょうか。第一の

候補は、地域の事業者です。水路案の場合においては、小売業者が候補になるかもしれません。小売業者は、地域のニーズを把握できるでしょうし、生産者ともコミュニケーションすることができます。たとえば、1960年代には、人々は、テレビを修理するために、町の電気屋さんに行きました。電気屋さんは、さまざまな修繕サービスを提供していたのです。

第二の候補は、地域の自治体です。地域の物的資源と環境資源を把握し、それを開発することにかけては、市町村は中心的な役割を果たすべきでしょう。都市計画は、リサイクルのルート、自然環境の配置、自然エネルギーの開発なども含めて策定されるべきです。

第三の候補が、地域住民自身です。地域住民が自発的に地域でのサービスの交換に参加するようになるためには、通常、なんらかの社会的な仕掛けを必要とします。LETSなどの地域通貨の仕組みは、このような社会的仕掛けのいい例です。他には、地域改善事業を推進するために、自治体、地域事業者、地域住民をコーディネートするグラウンドワーク団体も、その例です。日本の田舎の一部で、伝統的血縁関係で地域コミュニティが緊密に結びついているところでは、人々は、自発的に助け合っています。このような伝統的・文化的な絆は、別の種類の「社会的仕掛け」といえるかもしれません。地域の祭をはじめとする文化的行事は、このような絆を強める働きをするでしょう。